

## 今何が起きているか

- コロナ禍で産後うつママは2倍以上増加、母親の4人に1人がうつの可能性
- 産後1年未満の母親の自殺数増加
- 児童虐待数20万超え 0歳児の赤ちゃんの虐待死増加
- 7人に1人以上こどもの貧困、すなわち赤ちゃんの貧困

私達が目指すもの  
地域でつくる  
実家にかわる第3の居場所。

## 今を子育てする母親・父親の特徴

- 頑張りすぎるなど教育されてきた
- 指示待ちが多い
- 打たれ弱い
- ITスキルが高い
- 応用が苦手
- 核家族

## 寒川町は例外??

## 当院の2つの柱



## 産後うつの母親

10人に1人

TSUNO K, OKAWA 他. コロナ禍における社会制度及びサポート喪失と産後うつとの関連 (研究報告) より

- 地主さんの代替わり
- 新興住宅の増加
- 夫婦ともに実家が遠い
- 両親ともに働いている
- 共働きでないと生活できない

## 産後ケア事業とは?

- 出産からおおむね産後1年の母子を対象に 助産師等の看護職が育児のサポート支援する事業
- 国が子育て支援策の主軸の一つとして推し進める

## コロナ禍でさらに

4人に1人

TSUNO K, OKAWA 他. コロナ禍における社会制度及びサポート喪失と産後うつとの関連 (研究報告) より



令和4年4月  
助産院mamana.house  
立ち上げ

- 私自身が抱えてきた育児の孤独感
- コロナ禍の育児の孤立
- 産前産後の支援の不足

## 当院の産後ケア



## 産後うつの父親

10人に1人

日本人男性における産後うつ病の有病率：メタ解析 (Tokumitsu K, et al. Ann Gen Psychiatry. 2020;19:65)

## これまでの寒川の子育て支援

行政依存



## 子どもの貧困率

※子どもの貧困とは、中間的な所得の半分に満たない家庭で暮らす18歳未満の割合を指します

7人に1人

(2019年国民生活基礎調査より)

→すなわち赤ちゃんの貧困

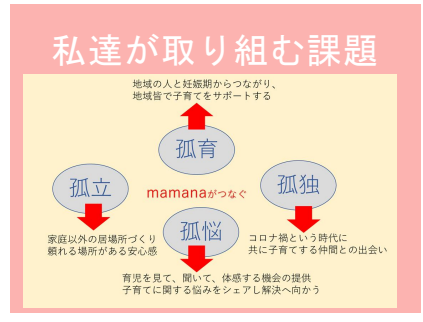
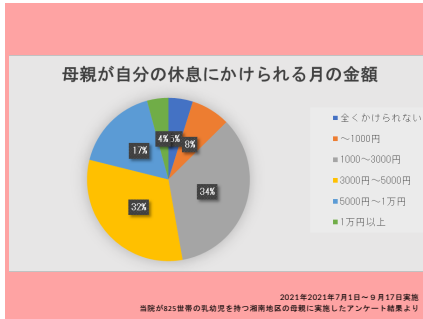
## これから目指すもの

民間補完

## 産後ケアの利用料金例

	蕨市 平塚市	寒川町	茅ヶ崎市
ショートステイ 1泊2日	18000円	5000円	
デイサービス 4800円 (6H) 3000円 (3H)		2000円 (7H)	4500円 (5H)
訪問	—	750円 (90分)	2475円 (90分)

寒川周辺の母親が  
ひと月に子育てサポートに  
使える金額は  
いくらでしょうか？



赤ちゃん食堂とは



2040年問題とは

少子化による急速な人口減少と高齢者人口がピークに達することで、日本が2040年に直面すると考えられている問題の総称

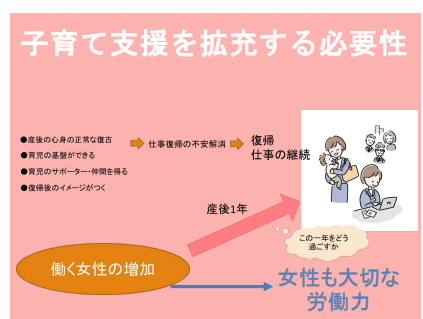
- ◆労働力人口の減少
- ◆社会保障費の負担額増

目的：

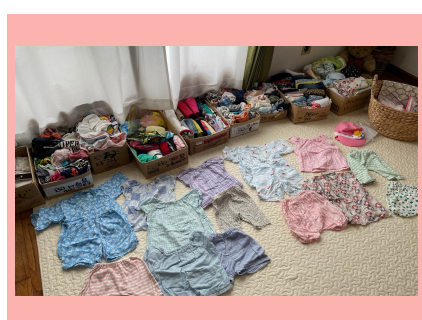
- ◆こども食堂の赤ちゃん版
- ◆産前産後の育児の孤立を防ぐ取り組み
- ◆乳幼児期の貧困支援

対象：2歳以下の乳幼児とその家族、妊婦さん

料金：大人400円  
2歳以下無料（離乳食、幼児食）



赤ちゃん食堂「ままな」  
の実際



2022年度 当院利用組数  
1000組超

寒川、茅ヶ崎、平塚、藤沢、横浜、綾瀬、海老名、伊勢原、厚木、小田原...  
居場所を求めてあらゆる地域から集まる



赤ちゃん食堂を利用する方の事例

- ◆食費やミルク代を浮かせるために、やむを得ず母乳育児を幼児期まで続けていた。
- ◆ミルクを溶めて飲ませたり、保育園に持っていくオムツの準備が大変で家で何もしゃがせずにおぼろにさせていた。
- ◆未払いで水道が止められている時は、公園の水飲み場で水を汲んでくる生活をしてきた。
- ◆出費を抑えるため、自身は食事をとらずに水をのみたり、水を飲んで空腹を耐えていた。
- ◆家にある調味料は、塩としょうゆだけ。少し余裕がある時も、大豆が入っただけのカレーが嬉しい。果物は、食べさせたことがなく、肉や魚はほとんど食べさせたことが無いので保育園で出されるバリエーション豊かな食事に、子どもが戸惑うことも多い。保育園でたくさん食べてきて欲しいのに好き嫌いもなく、食べられない味で、子どもが食べられない。
- ◆20代の非正規雇用の夫婦、働いても給与があがらず、相親先からは、若いからなんとかなると言われて八方ふさがりになっていた。

メディア掲載

- ◆NHKおはよう日本 「コロナ禍の孤立防ぐ「赤ちゃん食堂」とは」
- ◆日経新聞 「神奈川県に産後ケア施設続々 葉山にホテル 母親の孤立防止」
- ◆NHK 昼前ほっと 「「赤ちゃん食堂」でコロナ禍の母親たちにつながるの場を寒川町」
- ◆東京新聞 「無料で離乳食をどうぞ「赤ちゃん食堂」 レジでも悩みも共有 孤立しがちな親子の居場所に」
- ◆中日新聞 「無料で離乳食「赤ちゃん食堂」 育児不安のママ支援」
- ◆たまひよ
- ◆フジテレビ ライブニュースイット
- ◆Yahoo! ニュース

全国で少しずつはあるが、赤ちゃん食堂が広がっている



## 地域で取り組む居場所づくり

- ◆地域ボランティアさん
- ◆地元農家さんよりお野菜の差し入れ
- ◆企業からの協賛
- ◆企業からロス食材の提供

## 私達の課題

- ◆赤ちゃんでも安心して過ごせる場所の確保
- ◆誰もが利用できる体制づくり
- ◆貧困世帯への支援の拡充

## 今後のビジョン

1年後 場所の移設 産後ケアの受け入れ拡充  
5年後 分娩の取り扱い

妊娠・出産・子育てを  
トータルサポートできる場所へ



皆様のご支援、ご協力をお願いたします。

